

圓福寺報



大本山妙心寺 開山無相大師 650 年遠諱参拝記念 平成 21 年 4 月 8 日

圓福寺報 第五十三号
平成二十一年五月一日発行
発行者 臨濟宗妙心寺派 圓福寺
千葉市稲毛区穴川町三七五 Ⅱ (二五二) 九一八一
<http://www.chiba-enpukuji.com>
E-mail: oshou@chiba-enpukuji.com

平成二十一年は、大本山妙心寺の開山様、無相大師の六五〇年の法要の年です。全国の妙心寺派のお寺から、たくさんの檀信徒の方々が本山に足を運び、開山無相大師様にお参りされます。

圓福寺の参拝団二十六名は、四月八日の大法要に参列させていただきました。当日は、妙心寺を代表する建物である「法堂」に五百名以上の参拝者と百名に近い和尚様方が参集され、厳肅そして荘厳この上ない大法要でした。

二日目には、京都国立博物館で開催の「妙心寺展」をゆつくりと見学する機会にも恵まれました。行く先々の満開の桜と共に、心に残る参拝旅行でした。

目次

大本山妙心寺	1
開山無相大師六五〇年遠諱	
参拝旅行記	

「茶禅会」のご案内	3
「ご詠歌」のご案内	

冬の寺子屋	3
「和尚と滑ろう！ イン 苗場」	

五月の土曜会のご案内	4
「市原、ポランテラ募集」	

この先のページは、四国あるき遍路の二巡目第三回の写真集です。毎回、参加された方に差し上げている写真集をご紹介いたします。この写真集は、最終ページより左開きで編集されておりますので、後るページからお読み下さい。

「四国あるき遍路の旅」	16
二巡目第三回写真集	





二日目
には、滋賀県東近江市にある臨済宗永源寺派の大本山永源寺を参拝することができま

た。紅葉の名所として名高い地ですが、新緑にもまだ早く、静まり返った境内は、葎（よし）葎きの本堂とあいまって閑寂そのものでした。
妙心寺団参の三日目には、岐阜県美濃加茂市の正眼寺を参拝いたしました。正眼寺は、妙心寺派の由緒寺院で、無相大師が妙心寺に招かれるまでの間、悟後の修行をされながら隠棲された由緒地です。そのため、妙心寺の奥の院と呼ばれることもあります。
現在は、妙心寺派の専門道場



妙法山正眼寺 美濃・伊深 2009-04-10

として多くの雲水が修行をしています。観光客が訪れることもない禅寺ですが、開山様六五〇年法要にあたり、特別に参拝をゆるしていただきました。開山堂・大庫裏・禅堂など、普段は

結して見ることで、あらためて開山無相大師の教えが息づいていることを肌で感じることもできました。

1	4/8 (水)	品川駅 ----- 京都駅 ----- 花園駅 ...<徒歩>..	<京都> 花園会館
		9:10 <ひかり>/465> 11:48 12:26 <山陰線> 12:39 .. 妙心寺(開山無相大師650年遠譚大法会).. 大本山妙心寺宿坊(泊) 13:00~16:00	
2	4/9 (木)	ホテル== 国立京都博物館(見学) == 永源寺(昼食・参拝) ==	<長良川温泉> 岐阜グランド ホテル
		9:00 9:30~11:00 12:00~14:00 ==<名神高速など>== 長良川温泉(泊) 16:00頃	
3	4/10 (金)	ホテル== 関市"円空館"(見学) == 正眼寺(見学) == 大山市内(昼食)	
		8:30 9:20~10:20 10:50~11:30 12:30~13:20 == 犬山城(見学) == 名古屋駅 ----- 品川駅(解散) 13:30~14:10 15:33発 <ひかり>/476> 17:33着	

茶禅会

【期日】

毎月第二・第四火曜日

【時間】

午後一時半～

【会費】

月二千元

【講師】

圓福寺寺庭 宮田 宗尚

【服装】

白い靴下

(それ以外は自由です。)

【用意するもの】

裏千家用の扇子・帛紗・懐紙

(茶禅会で購入することもできま

す。)

【定員】

五～六名

【申込】

お寺までご連絡ください。

ご不明な点など、

何なりとお寺までお

問合せください。



ご詠歌

わかりやすい言葉で書かれたご詠歌を通して、親しく禅の教えに触れることができます。ご興味のある方は、男女問わずお寺までお気軽にお問合せください。

これまでの先生に加え、五月からは妙心寺派のご詠歌の指導者代表をお勤めの畠中健友先生もご指導くださいます。わかりやすいご指導の下、男女混声で練習して、全国大会出場を目指そうと意気が上がっております。

どうぞお気軽に見学にお越し下さい。ご参加は、更に大歓迎です。

【期日】

毎月第二・第四木曜日

【時間】

午後二時～四時

【会費】

半年で三千元

【講師】

京都府 西禅寺住職 無相教会詠鑑 畠中 健友師

山梨県 楽音寺住職 内藤 睦雄師

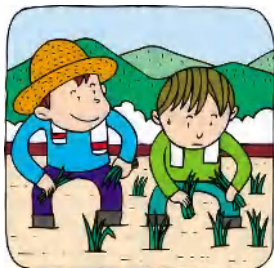
【定員】

たくさん

【申込】 特に必要なし。問合せはお寺まで。



冬の寺子屋 「和尚と滑ろう！ イン 苗場」 毎年三月末に開催している冬の寺子屋は、今年は四月に入ってから開催でした。雪不足が心配されましたが、左の写真の通り、たっぷりの雪が残っていました。好天に恵まれ、頂上からは越後三山などの山並みを望むことができました。



5月16日(土)

市原、ボランティア募集

——5月の土曜会

圓福寺市原別院(仮称)用地では、梅園の苗木も植えられ新芽が芽吹いてきました。

気候も良くなり、そろそろさつま芋の苗植えの時期となりました。毎年秋の収穫祭に向け、ボランティアを募集いたします。

新緑の一日をすがすがしい空気の中で、気持ちいい汗をかきたい方、ぜひお出かけ下さい。広大な原っぱがありますので、ご家族連れでお越しいただいても大丈夫です。



今が盛りの「ウワミズザクラ」です。

日時:5月16日(土) 午前9時半 現地集合
 10時 さつま芋も苗植え、じゃが芋土寄せ
 側溝掃除、草刈り、その他
 12時 昼食・懇親会
 14時 後片付け
 15時 解散

場所:圓福寺市原別院(仮称)

会費:花園会員 1,000円

一般参加 1,500円

(会費には、昼食・飲み物代・保険料が含まれます。)

申込:圓福寺まで、電話・ファックス・メールにて

締め切りは、5月15日です。

備考:雨天中止ですが、その際はご連絡いたします。

水道・トイレ完備。

草刈り鎌、草刈り機、クワなどをお持ちの方はご持参下さい。

ご不明の点お問い合わせ下さい。

Tel 043-251-9181、Fax 043-251-9549

E-mail oshou@chiba-enpukuji.com

四国あるき遍路の旅



目次：	頁
地藏越え遍路道	2・3
十八番恩山寺	4
十九番立江寺	6・7
ふれあいの里「さかもと」	8・9
第3回のあしあと	9
二十番鶴林寺・二十一番太龍寺	10～11

平成21年3月1日（日）～3日（火）

一難（所）去って、また一難（所）

第2回の焼山寺の難所をなんとか無事に切り抜けて、第3回は徳島のシンボル「眉山」の西側を峠越えして平地を歩き、再び山中へと足を踏み入れるルートでした。

鶴林寺の宿坊が閉鎖されたため、2日目に山に入ることができず、ひな祭りのふるさとでゆっくりする時間がありました。

いよいよ3日目、実はここも難所でした。二山越える山の頂上にそれぞれ札所があり、遍路の発心の固さを試してくれているようでした。最後に雨もふりだし、晴天・休息・寒さ・山越え・雨・・・と、歩き遍路のフルコースを味わった第3回でした。

前回の続きから歩く



徳島に到着して、一路前回最後の札所、井戸寺近くの府中駅に向かいました。

徳島駅も、ついこの間来たばかりで、どこにベンチがあって休めばいいかもわかっています。どことなく余裕が感じられるようでした。

府中駅に着くと、なんとなく

懐かしささえ感じられ、無人の駅も駅前も郷里を思い出させてくれました。

いよいよここから歩きはじめて、前回から端折ることなく続いていきます。まずは、徳島方面に向かって東進して、鮎喰川を渡ります。なにしろ水のきれいさに驚かされました。

古道、地蔵越

府中駅から歩き始めると、すぐに十八番恩山寺に向かう遍路道に合流することができます。

遍路道と一口に言っても、長い時間の中でルートが変わったり、新しいルートができたりしています。移動手段が徒歩から車に変わったことも一因だと思います。でも、近いから楽だからと新しい遍路道や整備された歩道を歩くと、歩き遍路は味気ない急ぐ旅になってしまいます。そこで、圓福

寺の歩き遍路は、できるだけ昔ながらのへんろ道を歩こうと思っています。

初日の地蔵越遍路道も、徳島市内に向かわずに、山越えはあるものの最短距離を選んだであろう昔の歩き遍路たちに思いを馳せながらのルートです。

遍路たちは、ある意味では娑婆に背を向け、ひたすら修行のために歩くことを第一にしていたはずですか



地蔵越遍路道の入り口です。



最初はあまり無理せずに、山中でも全員で小休止。天気もいいし、気分も晴れ晴れしました。

ら、好き好んでにぎやかな町に足を向けるはずはありません。この地蔵越遍路道こそ、本当の遍路道だとばかり、山中に分け入っていました。

徳島の市街地からそんなに離れていないのに、一步山に入ると深山幽谷といった感じでした。

十八番恩山寺へ



「セブン」のはなし

あるき遍路で心配することは、今晚の宿と三度のご飯。でも、大人数のあるき遍路であれば、当然宿は予約をいれておかなければなりません。宿があれば朝夕の二食の心配はなくなり、残るは昼飯。

旅程を作るときに、歩き遍路用の地図を見て、ちょうど地蔵越えをして下りて来た所に、「丸にS」のマーク。そして、マークの隣りに「セブン」と書いてありました。そうか、Sはストアかスーパーの略だと思いました。そして、「セブン」ということは「セブンイレブン」だと合点しました。

であれば、山越えでおにぎりを持つ必要もなく、それぞれが好きなものを買ってもらえば楽だと、昼飯は心配無用になりました。

当日、電車の中で、念のために携帯電話でセブンイレブンの店舗情報を見ました。ところが、徳島

県北部にはセブンイレブンはないという回答でした。携帯電話の情報の方がリアルタイムに近いのに、歩き遍路用の地図はバイブルに近いものがありますから、地図情報が正しいのだと気にも留めませんでした。

ところが、「丸にS」マークのところにあったのは、「丸にセブン」と書いた建物でした。裏側から見ると何を商っているのやら、パチンコ屋さんにも見え、工場にも見え、不安になって走って行ったらスーパーセブンでした。皆弁当を手に入れることができ、事なきを得ましたが、思い込みは恐ろしいことを改めて思い知らされたセブンでした。

昼飯にありつけなかったら、皆さんの胸のボタンがウルトラセブンのように、ピコーッピコーッと鳴り始めるところだったかも…。



川岸でお弁当を広げたときの、住職の足の裏。一見普通の足ですが、この足でどこでもいける強靭さを持っています。

十八番恩山寺

山道と平らな道

昼飯を食べてからは、平坦な道が続きます。山はきついとか苦しいとかいいますが、平坦な道が延々と続くところの方が本当はつらいかもしれません。

それは、忙しいときの方がいろんな仕事をこなせるのに似ています。時間ができたら遍路にでも行

きたいという話しをよく聞きますが、そういう人は時間ができても遍路はしないはず。平坦な道は、そんな変化のない時間をもてあましていくようなもので、変化がなくてつらいのです。

だから山道がきびしいことや、日々忙しいことはありがたい。



平らな道も、お地藏さんたちがアクセントになって、励ましてくれているようです。



ようやく今回最初の札所、十八番恩山寺の入り口にたどり着きました。ここから少しだけ登りになります。



車通りなら見落としてしまう恩山寺の仁王門。草の生えたへんろ道を通って行くことができます。歩き遍路ならではのありがたさです。

お接待をいただく

恩山寺の境内にたどり着いたら、お接待のご夫婦らしき人がいました。

お遍路さんが着く度に、お接待のカップえびせんを持って差し出していました。

お接待は、喜捨と同じで自らの食いの気持ちをなくすための行で

あるとともに、自分たちが遍路にいけない代わりに、お遍路さんにお接待することで、その願いをかなえようとする意味があるといえます。

お接待をいただいた遍路は、その人の願いも背負って歩くことになるので、これも同行二人です。

お接待のえびせんもやめられませんが、遍路も同じで、やめられないとまらない



こじんまりとした恩山寺本堂。威圧感がなく、親しみを覚えます。



まだ3月はじめ、団体のお遍路さんも動き始めていない時期の札所は、静けさが満ち溢れているようです。

十九番立江寺へ



竹林のへんろ道

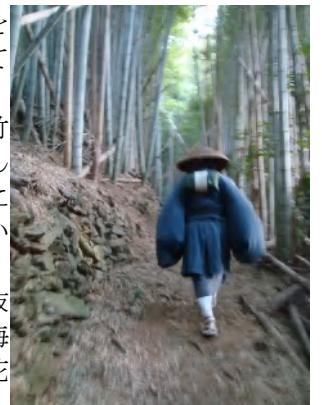
恩山寺の境内にトイレはなく、駐車場まで下ったところにあるトイレで用足しをして、いざ出発です。

計画段階では、門前のへんろ宿に泊る予定でしたが、恩山寺の裏山の工事の職人さんで満員とのことなので次の立江寺まで行かなければなりません。

山門下からのへんろ道への入り口は、とてもわかりにくくなっています。牛小屋のそばを通り、農家の敷地に入るような感じだからです。でも少しの勇気と図々しさ

に背中を押されて進めば、すぐに竹林のへんろ道に入ることができます。

山を抜けたら梅と菜の花満開の人里でした。あとは舗装道路をひたすらに立江寺を目指すのみです。



桜田さんご夫妻です。



立江寺で宿坊泊

立江寺に着いたのは5時少し過ぎ、納経所が閉まった後でした。

ご朱印はいただけないにしろ、お参りをしようとしていると、宿坊の方が出てきて、「どうぞおあがり下さい。」と進めてくれます。ずいぶん親切だなと思ったら、立江寺宿坊は、朝のお勤めがないかわりに、夕方のお勤めなのだそうです。その時間が迫っているのも、早く上がってくれという意味だったようです。

言われるままに客殿に通されると、お茶が出されました。丁寧な応対をしてくださると思っていたら、このお茶の時間がご祈祷の申込書を書いてもらう時間だったようです。

本堂でのお参りが済んで、お風呂、そして夕食と、流れるようなタイムスケジュール。その間にすでにご朱印も済んでいました。お風呂から出てくると、男女別の大部屋には既に布団が敷かれてあり、まさに修学旅行を思い出させてくれ、なんとなくうきうきしました。

夕食は、宿坊とはいえおさし

みも出る料理。自然と麦般若や芋般若も進みました。なにしろ芋般若は、大きな水割りグラスに半分も注がれていて300円。後は水で割るなりお湯で割るなり、ご自由というシステム。おいしくいただきました。

早朝に千葉を出発して、バス・電車・飛行機を乗り継ぎ、徳島に到着してからはずっと歩きでしたので、飲み物もさほどいただかなくとも、すぐに睡魔が襲ってきます。夕食後は、ずらーっと並んでいる布団の思い思いのところに大の字になって高いびき。ほどなく電気も消され、昔の懐かしんでの枕投げなどあろうはずありませんでした。



立江寺本堂前で記念撮影。

鶴林寺の麓へ

翌朝、6時過ぎに本堂に行っ
て、一人でお参りをさせていた
きました。誰もいない本堂でお
経をあげていると、束の間、こ
の大寺の住職になったような気
分を味わわせていただきました。

出立に当たって、大師堂のお
参りはしていなかったので、朝
のお勤めよろしく、大師堂をお
参りして、鶴林寺の麓を目指し
て出発しました。

鶴林寺の宿坊は閉鎖されてい
るので、この日はその麓までし
か行くことができません。ほぼ
平坦な舗装された道を約十キロ
の予定です。鶴林寺への遍路道
の登り口まで行けば、今日泊る
宿のバスが迎えに来てくれるこ
とになっています。お昼ご飯も
その宿にお願いしてあります。
すべて準備万端、天気予報も
心配ないようですし、のんびり
てくてくの予定です。

タクシー組の上條さん・執行さんと一緒に



立江寺の山門を出て、歩きはじめます。



【思い出写真館】

平成14年11月24日

一巡目の立江寺での写真。前回は2回目に立江寺をお参りしました。二巡目よりバスや電車を使用していたようです。ただし、この写真は3回目の最終日に時間があって立ち寄ったときのものでした。

この人数と住職ですから、総勢11名だったようです。清水さんは髪を生やしていたのですね。一番変わったのは、子どもだった耕です。このとき、小学5年だったと思います。

ふれあいの里「さかもと」

今日は楽だなど、誰もが思っていたら、途中から天気予報に反して「雨」。しかも、冷たい風まで吹いてくる始末。なかなか楽をさせてはくれません。その上、狭い道を大型トラックなどが猛スピードで走り、水しぶきを浴びせ、風であおっていきます。交通弱者は、さらに弱者にさせられるのです。

禅の修行に「下座行」というのげざぎょうがあります。托鉢をする乞食行こつじきや野良仕事、便所の掃除や汲み取りなどなどです。この行を通して、「俺が・・・」という我見や慢心を徹底的に叩き潰されます。すると、大抵のことは受け入れることができたり、許すことができたり、自己中心ではないものの見方もできるようになります。トラッ



クに水しぶきを浴びせられ、風にあおられて弱者になることは、「下座行」そのものだといつも思っています。

そんな行を繰り返す遍路は、我見や慢心、自己本位の考えを捨てて、次第にいい顔になっていきます。同行の「行」は、修行の「行」でもあるのです。

宿の迎えのバスを、心からありがたいと思えたら、下座行もした甲斐があるというものです。



【上】途中から予想はずれの寒風と雨の見舞われ、カッパを身につけた尚美さん。まるで「赤だるま」。【中左】ふれあいの里「さかもと」でいただいた昼ごはん。「おひな様セット」というひな祭り特別メニューで、これにうどんもついています。手の込んだ料理で、おいしかったです。【中右】坂本の「人形文化交流館」に案内してもらいました。寒くて、ストープの回りに自然と集まりました。【下左】この2人は、お内裏さまとお雛様ではありません。ふれあいの里「さかもと」の入り口でパチリ。鶴林寺の奥の院「慈眼寺」から帰ってきたところです。【下右】だれが三人官女かもめているところではありません。みんな寒くて半天を着ています。ここでも尚美さんは「赤だるま」のようです。

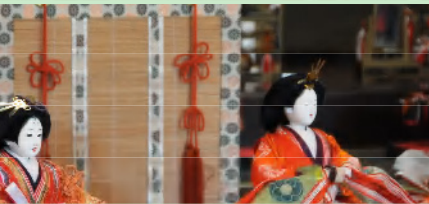
雛人形の町「勝浦町坂本」



「坂本」がある勝浦町は、ひなまつりの真っ最中でした。千葉の勝浦のひなまつりのルーツだそうです。

坂本に行く途中の街道沿いの商店街にも、店先にひな人形が飾ってありました。坂本は、おひな様の奥座敷と呼ばれ、山の斜面に張り付くような集落の街道沿いに、趣向を凝らしてお雛様が飾られています。

宿でお昼ご飯をいただいた後の自由時間を利用して、街道沿いのお雛様と、旧家森本邸のお雛様を見に出かけた人もいました。ここにある写真は、カメラ担いで出かけた石川先生の作品です。



第3回のあしあと

期日	曜日	コ ー ス 予 定						食事・宿泊				
1	3月1日	日	6:30		7:20発	JAL1431	8:35着	9:00発	【歩く距離】約18.5km			
			羽田空港集合		羽田空港			徳島空港				
			空港リムジンバス	9:24着		9:48発	《JR徳島線》	10:00着		10:10発		
					徳島駅		JR府中駅					
		一徒歩一 (地蔵越え道路) 約8km	12:30着		13:15発	一徒歩一	15:45着	16:15発	昼食は、途中のスーパー「セブン」で買って、徳島文化の森公園そばの河川敷にて食べる。			
				徳島文化の森公園(昼食)		約10km			宿泊：立江寺			
		一徒歩一 約4.0km	17:15着						小松島市立江町字若松13 0885-37-1019			
			19番立江寺	立江寺宿坊泊です。								
2	3月2日	月	8:00発	一徒歩一	途中、昼食				【歩く距離】約10.2km			
			立江寺宿坊	約10.2km		生名						
			生名まで宿のバスが迎えに来てくれます。その後は、人形文化交流館見学。バスにて宿へ行き、昼食。									
			①坂本地区のひなまつり「おひな様の奥座敷」見学			②20番奥の院慈眼寺参拝。この日歩き足りない人向けです。			宿泊：ふれあいの里さかもと			
			③宿にて休息。ふれあいの里さかもとは、廃校の小学校を利用した農村体験型宿泊施設だそうです。						勝浦町坂本字宮平			
			午後は各自自由とする。						0885-44-2110			
				ふれあいの里	さかもと泊							
3	3月3日	火	7:30発	《送迎バス》	7:45着		7:50発	一徒歩一	9:00着	【歩く距離】約13.2km		
						生名H30m		約3.0km	20番鶴林寺			
					9:40発	一徒歩一	12:20着		13:20発		一徒歩一	14:50頃
					鶴林寺H500m	約6.7km	21番太龍寺H460m		約6.3km		阿瀬比バス停	昼食は、太龍寺にて。
					↑途中、大井着が10:30だった。			15:50発	《徳島バス》		17:08着	
				道の駅「わじき」で休憩。		阿瀬比バス停		徳島駅				
			17:20発	【空港リムジン】	17:44着		18:50発	JAL 1442便	20:00着			
			徳島駅		徳島空港	徳島空港			羽田空港			

二十番鶴林寺

3日目。いよいよ今回のクライマックス。二十番鶴林寺と二十一番太龍寺です。

天気予報は、曇りのち雨。ふた山越える山道の雨はきつい、と覚悟を決めての出発でしたが、降りだしたのが太龍寺に着いてからだったので助かりました。



総勢二十三名のあるき通路。集合写真も壮観です。



登りはじめからきつい、鶴林寺への
通路道。みかん畑の中の急坂です。

二十番鶴林寺

500

2.5km



190

県道に出た所

3.6km

大井休憩所

40
5.0km

18

太龍寺登坂口

7.5km

180

水呑大師

1.3km

下の数値はこの日の出発地
点「生名」からの距離です。

生名

30

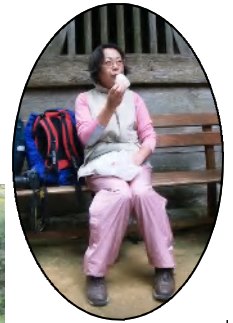


この写真は一巡目のときのもので
す。皆、8才ぐらい若いです。

「●」の脇の数字は標高 (m) です。

二十一番太龍寺

鶴林寺でお参りを済ませると、白いゴミのようなものがふわふわ飛んでいるのに気づきました。なんと「風花」でした。寒いわけです。でも本降りにはなりませんでした。



三日目のお昼ご飯は、太龍寺に到着した順に、山門のあたりでほおばりました。ふれあいの里「さかもと」さんで作ってもらったおにぎりにです。寒い中で冷たいおにぎりになりませんが、これが格別の味なの不思議です。



二十一番太龍寺



520

9.2km

遍路道分岐

430

8.7km



遍路道分岐

430

舗装道路始点

330

10.3km



本降りの雨になってしまいました。太龍寺からの下りは、長いだらだら坂でした。



ようやく太龍寺に到着しました。予定より40分ほど早い到着でした。

お参りの後は、古い遍路道で降りようと思い、下り口を聞くと、滑落・遭難の危険があるため通行止めとのこと。仕方なくなだらかな下りのへんろ道に行くことになりました。

ロープウェイで降りられると期待した人には残念でした。

13.1km

80

「坂口屋」前

140

阿瀬比交差点

15.5km

「●」の脇の数字は標高(m)です。

発心、堅固となる。

ご存知のように、徳島・阿波の国は「発心の道場」といわれています。八十八ヶ所を廻る思いが確かなものかどうかを試されるのです。そのために、焼山寺と、今回の鶴林寺・太龍寺という二つの難所が待ち構えていたわけです。

難所を越えながら、なぜこんな辛い目に遭おうとするのか、遭わないといけないのかと自問自答の一步一步だったのではないのでしょうか。

その答えを見つけた人も見つからない人も、とにかく一步を進め

ないといけないことだけは、体でわかったのではないのでしょうか。でもありがたいことに札所があったり、一日の終わりがあったり、なにより八十八という限りがあります。明けない夜はないように、その一步を大切にすれば、いつかは結願の日が来ることはまちがいありません。

今回は、難所を経験した遍路たちが穏やかな気持ちで歩ける道程となります。里山を経回り、徳島の最後は海沿いの遍路道と、海を臨む札所となります。



へんろ写真集の編集後記

徳島の難所も今回で最後でした。

遍路から帰ると、彼岸法要・春彼岸・親戚の結婚式・冬の寺子屋・本山団参・幼稚園入園式と例年にないほどの多忙なスケジュール。その間、この写真集のことが念頭から離れることはありませんでしたが、如何せん己の時間の使い方のまずさから、出来上がりが遅くなってしまいました。

いつにも増してのあわただしい編集になりましたので、間違いや思い違いなどもあるかと思えます。そこら辺は、各自で訂正しながらご覧いただければ幸い

です。

なお、この写真集は圓福寺ホームページにも掲載させていただくことを、あらかじめご承知おきください。

第四回は、平成21年11月20日から11月22日の二泊三日を予定しております。土佐の国「修行の道場」に足を踏み入れる予定であります。ご参加をお待ちしております。

つたない写真集を最後までご覧いただき、ありがとうございました。



2巡目第3回
平成21年
3月1日～3日